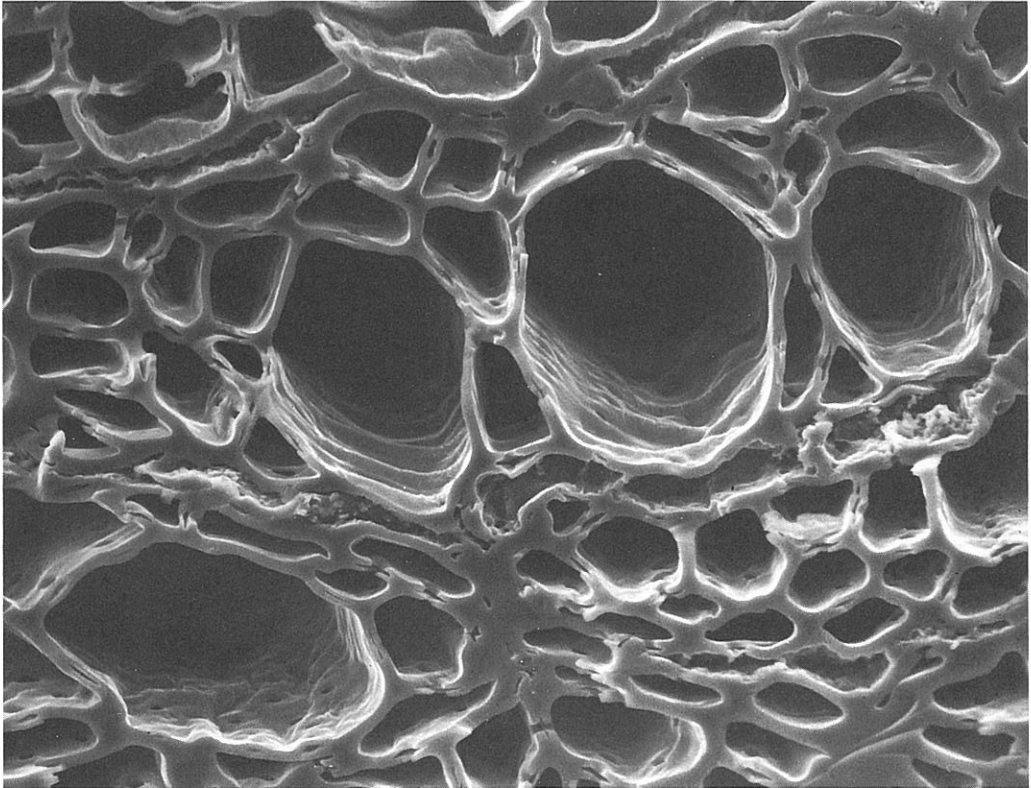


# 同窓会報



「活性炭の電子顕微鏡写真」

第 12 号  
'94. 12. 15  
豊橋技術科学大学同窓会

# 同窓生諸兄姉へ

豊橋技術科学大学同窓会名誉会長 学長 佐々木 慎 一



平成5年度末を以て学部卒業生は4,737名、修士修了者は3,166名、そして博士修了者は107名を数えるに至った。学部卒と大学院修了者数に重複があるにしても、豊橋技術科学大学から産業の各分野にかくも多数の人々が参画し貢献しているということは頼母しい限りであり、諸兄

姉の今後のご健闘を祈ってやまぬところである。

大学はいま8工学系と1学系とで構成されるようになったことは同窓会報11号(平成5年)に記したとおりである。これに伴い大学院博士後期課程は、これまでの3専攻(総合エネルギー工学、システム情報工学、材料システム工学)を廃止し、現状に沿うべく新たに機械・構造システム工学、機能材料工学、電子・情報工学、環境生命工学の4専攻をもって組織し出発する予定となった。大学は時代の変化を敏感に察知し柔軟にこれに 대응してこそ、その使命を達成することができる。この責を及ぼさずながら果しつつあると自負するものである。さらにリフレッシュ教育の必要が切望されているいま、これに 대응するために社会人をその身分のまま定員枠内に学生として迎え入れる制度が7年4月から発足する。従来も社会人学生の入学はこれを認めてきたところであるが、一歩進めて修士・博士の課程に一定の人員枠を設け、入ってきた社会人学生は教官と諮った上で授業・研究の形態を双方に都合よきようきめて修学する。大学院設置基準第14条にいう「大学院の課程においては、教育上特別の必要があると認められる場合には、夜間その他特定の時間又は時期において授業または研究指導を行う等の適当な方法により教育を行うことができる」がこれら社会人学生に適用されるのである。社会人としての業務と大学における勉学を両立させるしくみとして今後とも発展させてゆきたいし、卒業生諸兄姉にも大きな関心を抱いて頂きたいものである。

大学運営にあたっては、これまで学長の補佐を楠菊信・高橋 正両副学長にお願いしてきた。高橋副学長におかれては4年間のご勤務ののち去る3月末を以てご退任、その後任には山下富雄事務局長をお願いし今日に至っている。現職の事務局長を副学長へという人事は国立大学にあってははじめてのケースである。

国民の人格・識見と大学行政に関する経験を買ってのことであった。この人事の直後、大学審議会は大学運営の円滑化について文部大臣に答申をなし、その中で「……大学の実情や副学長の職務内容に応じ、教員以外で行財政に精通した人材を副学長にすることも考えられる」といっている(大学審議会ニュース No.3(1994.7))。この措置は審議会答申を先取りしたということになる。大学の改革が叫ばれるなか、それを着実に実行してゆくためには教授会など教員集団の行う言動を異なる立場から視ることのできる副学長が必要なのであり、この人事は他大学でも考慮中の学長補佐制度に大きなインパクトを与えることになるものと思っている。

昨年度において不況に対処するための補正予算の執行があり、この予算で国際交流会館の増設が認められた。増設分はこれまでのように留学生を隔離してしまうような留学生専用宿舎ではなく、場所も学生寄宿舍のゾーンにそれとほぼ同じ規格のものを設け、留学生・日本人学生それと女子学生が使用できる混住方式の国際棟ということで既に去る3月末竣工し利用されている。また電気産業振興に資するような施設であればそれへも予算措置が認められるとのことで、かねて作成してあった長期計画案を勘案しつつ、この趣旨に副うものとして固体機能デバイス研究施設を要求し実現をみた。半導体デバイスの教育研究に一層のはずみがつくものと期待される。ただこの分野の指導的立場にあった中村哲郎教授の急逝は惜しみても余りある痛恨事であった。残された若手教官たちの奮起が求められるところである。

このほかに教育研究用諸設備・機器の購入も順調に進んでいる。課外活動のための野球場・体育館・テニスコートの改修、改善も行われた。さらに駐車場は全学の要求をほぼみたくほどに拡充され、これにより不法駐車はなくなる。駐車場を欠くままに横行する不法駐車は学内のモラルの頹廃につながり憂慮していたのであるが、これが一掃されることになり安堵している。以上大学の最近の状況につき主なものを示した。

市況に若干の好転の兆しがみえてきたこととはいえ、酷しき状況のなかでのご勤務、卒業生諸兄姉のご苦勞は察するに余りある。日本経済の発展と産業立国のさらなる推進のために今後とも健闘活躍されんことを祈って挨拶とする。くれぐれも健康にご留意を。

# 学 内 近 況 報 告

## エネルギー工学系

記録的な暑さと水不足の夏が過ぎ、最近は過ごし易い日が多くなってきました。卒業生、修了生の皆さんはいかがお過ごしでしょうか。恒例になりましたが、ここ1年間のエネルギー工学系内の動向をお知らせします。

まず、平成6年9月30日現在でのエネルギー工学系のスタッフをお知らせします。

[系 長] 竹園茂男

[第1講座：熱・流体工学講座]

教 授：後藤圭司，三田地紘史，日比 昭

助 教 授：中川勝文，北村健三，柳田秀記

助 手：鈴木孝司

[第2講座：エネルギー変換工学講座]

教 授：小沼義昭，蒔田秀治，高木章二

助 教 授：野田 進，鈴木新一

助 手：渡辺英昭，奥村幸彦

[第3講座：機器設計学講座]

教 授：竹園茂男，本間寛臣，上村正雄

助 教 授：関東康裕，陳 健橋，畔上秀幸

Dzimko Marian

助 手：Quasin Hussain Shah

[技 官] 徳増 学，森川正治，上谷昌宏

[事 務] 永井一彦，野亦真理子

これをご覧になっても分かるように、幾人かの移動がありました。長年、本系で活躍されてきた第2講座助教授の吉川典彦先生が、平成6年4月1日付けで、エコロジー工学系（第8工学系）に移られました。また、第3講座助手であった江崎昇二先生が、4月1日付けで久留米高専電子制御工学科に助教授として転出されました。1系の事務を処理して下さっていた羽谷満小さんは、4月1日付けで入学主幹室に移られました。1系事務室には新しく、永井一彦さんが来られました。永井さんは、これまで学生課に勤めていた方です。

新しく来られた先生もいらっしゃいます。今年4月1日付けで舞鶴高専電子制御工学科から、野田進先生を第2講座の助教授としてお迎えしました。野田先生のご専門は燃烧工学です。また、本学博士課程を修了

## 鈴木新一

した奥村幸彦先生を第2講座の助手としてお迎えしました。奥村先生は、岡崎先生と吉川先生の元でプラズマの研究をし、学位を取得されました。しかし残念なことに奥村先生は、本年10月1日付けで、鶴舞高専電子制御工学科に助手として転出される予定です。

もう一人、転出予定の方がいらっしゃいます。第3講座助手のQuasin Hussain Shah先生は本年10月10日付けで母国のパキスタンに帰り、母国において研究教育活動に従事される予定です。

教授の先生方に移動はありませんが、本間寛臣先生は国際協力事業団の専門家として、本年7月1日からインドネシアに出張されております。インドネシアでは、大学の工学教育の質を向上させるプロジェクト（HEDS プロジェクト）に参加されています。期間は2年間の予定です。

次に就職状況ですが、今年も不況の影響で、エネルギー工学系への求人は172社に留まりました。この数は昨年約65%であり、厳しい状況でした。しかしそれにもかかわらず9月末の時点で、数名を除き、ほぼ全員の就職内定が決まっています。この結果は、同窓会会員諸君の活躍、就職する学生の自覚、就職担当の高木章二先生の奮闘に因るところが大きいのだろろうと思います。

ひとつ嬉しい知らせがあります。9月4日（日）に堺市で開かれた“ロボットコンテスト大学部門国内大会”で、本学のロボコン倶楽部が優勝しました。決勝戦は長岡技科大との対戦となり、熱戦の末、12対11で本学が勝ちました。エネルギー工学課程の学生も何人かロボットの製作に参加しました。NHK 衛生放送で放映されましたので、ご覧になった方もいらっしゃるでしょうが、良いニュースなのでお知らせします。

昨夜は大型の台風26号が紀伊半島に上陸し、豊橋もかなりの強風に見舞われました。大学内でも何本かの樹木が倒れています。ついでに就職難を吹き飛ばしてくれると良かったのですが。

最後になりましたが、卒業生、修了生の皆様のご健康と一層のご活躍をお祈り申し上げます。

## 生産システム工学系

卒業生、修了生の皆様、本年度卒業生および修了生の就職状況たるや、前年と比較にならないほど厳しい状況となりました。それでも、なんとかあったと言えるところでしょうか。本年度の生産システム工学系の動向についてお知らせします。

まず、新任教官としては東京大学生産技術研究所より池野順一先生が精密加工研究室の講師に、西安交通大学（中国）より崔文田先生がシステム解析研究室の講師に、大島商船高等専門学校より兼重明宏先生が技術開発センター助手に、長岡技術科学大学より古井光明先生が機械材料研究室助手に各々着任されました。計測システム研究室教授の北川先生がシステム情報工学専攻長の要職に着かれました。寺嶋一彦先生が工程制御研究室教授に、小野克明先生がシステム解析研究室教授に、山本勇先生が材料保証学研究室助手に各々昇任されました。

教官の転出・転任は次の様です。システム解析研究室教授の西村義行先生が辞職され東邦大学理学部教授に、機械材料研究室教授の森永正彦先生が名古屋大学工学部材料プロセス工学科教授に転任されました。江崎尚和先生が工作センター助手より機械材料研究室助教授に昇任された後、鈴鹿高等工業専門学校助教授に転任されました。さらに、機械材料研究室の助手として着任されておられました井上聡先生が沼津工業高等専門学校講師に、システム解析研究室の助手として着任されておられました竹村学先生が鶴岡工業高等専門学校講師に各々転任されました。工程制御研究室助

## 電気・電子工学系

卒業生、修了生のみなさん、いかがお過ごしでしょうか。

今年度の教官の転出・転入は次のようです。

まず、基礎電気・電子大講座では、福永哲也助手が岐阜高専から、内田裕久講師が新技術事業団から赴任され、井上光輝講師が助教授に昇任されました。

電気システム大講座では、滝川浩史助手が釧路高専へ移られ、かわりに、榊守講師が釧路高専より赴任さ

## 新家光雄

手の前田安郭先生が名古屋大学材料プロセス工学科助手に転任されました。また、精密加工研究室の陳平助手が辞職されました。

国際協力事業団の専門家としてインドネシアに長期赴任されておられました精密加工学研究室の星鉄太郎教授が無事帰国され、系長補佐としてお元気に活躍されておられます。

現在の生産システム工学系スタッフの陣容は以下のようです。

[加工学大講座] 岡根教授（系長）、星教授（系長補佐）、中村教授、堀内教授、梅本助教授、牧助教授、福本助教授（工作センター）、池野講師、原田助手

[材料学大講座] 小林教授、川上教授、新家助教授、村田助教授、竹中講師、横山助手、山本助手、白井技官

[生産計画大講座] 北川教授（専攻長、工作センター長）、寺嶋助教授、小野木教授、三宅助教授、崔講師、堀畑助手、橋爪助手、兼重助手（技開センター）、椿技官

[事務] 伊藤さん

以上が生産システム工学系の近況です。卒業生、修了生の皆さん、近くにお越しの際には是非研究室の教官・後輩をお訪ね下さい。皆様のご健康とご活躍をお祈り致します。

## 石田 誠

れました。また、中川重康助手が舞鶴高専より赴任されました。

電子デバイス大講座では、アシュトッシュ・ガンジュ助手が赴任されました。

なお、6月2日に榎本茂正名誉教授が、また、10月30日には中村哲郎教授が逝去されました。ここに故人の御冥福を祈り、謹んで哀悼の意を表します。

この様な異動を含めた現在の3系の教官スタッフ

は、以下のようになっています。

[基礎電気・電子大講座]

教授：藤井壽崇，英貢，太田昭男

助教授・講師：井上光輝，服部和雄

助手・教務職員・技官：カバレロフ・ワジム，嶋田  
哲也，福永哲也，前田勝典

[電気システム大講座]

教授：小崎正光（系長），榊原健樹

助教授・講師：長尾雅行，石井新之助，榊守，内田  
裕久

助手・技官：中川重康，日比美彦

[電子デバイス大講座]

教授：古田明（系長補佐），米津宏雄

助教授：石田誠，朴康司，並木章

助手・教務職員・技官：松本佳宣，大島直樹，アシ  
ユトツシュ・ガンジュ，足  
木光昭

最後に、卒業生，修了生の皆様のご健康と益々  
のご活躍・ご発展をお祈りしております。

## 情報工学系

卒業生，修了生の皆様，それぞれの職場でご活躍  
のことと思います。

さて，本年は，計算機大講座において，今井正治先  
生が教授に，井上克己先生が助教授にそれぞれ昇任さ  
れました。

また，情報処理大講座では，池野英利講師が舞鶴高  
専に，羅志偉助手が理学研究所へ移られ，かわりに，  
金子豊久教授が日本IBM東京基礎研究所より，戸田尚  
宏講師が舞鶴高専より，鄭心知教務職員が京都大学よ  
りそれぞれ赴任されました。

さらに，情報システム大講座では，本学博士後期課  
程出身の黄新民先生が助手になられました。

このような異動により，現在の4系の教職員は次の  
ようになっています。

## 後藤信夫

[計算機大講座]

教授：中川聖一（系長），今井正治

助教授・講師：湯浅太一，井上克己，奥山徹

助手・技官：山本幹雄，塩見彰睦，片岡嘉孝

[情報処理大講座]

教授：臼井支朗（系長補佐），伊藤宏司，金子豊久

講師：戸田尚宏，山北昌毅

助手・教務職員：中内茂樹，鄭心知，石井宏幸

[情報システム大講座]

教授：宮崎保光，田所嘉昭

助教授・講師：後藤信夫，川人祥二

助手・技官：黄新民，肖業貴，宮脇治雄

最後に，4系教職員一同，卒業生，修了生の皆様  
のご健康とご発展をお祈りいたしております。

## 物質工学系

卒業生，修了生の皆様，いかがお過ごしでしょうか。  
この夏は昨年とうってかわり異常高温と湯水に悩ま  
され，地球環境の悪化が想像以上に進んでいるのでは  
ないかと心配です。生態系への影響が気になりますが，  
技科大の周辺はそれでもまだかなりの自然が残されて  
おり，大切にしていきたいものです。

さて，平成6年9月現在での物質工学系の教職員は  
以下のようになっています。

工業無機化学大講座：亀頭直樹教授，逆井基次教授，

## 前田康久

大串達夫助教授，角田範義助教授，前田康久講師，水  
嶋生智助手，Pezzotti Giuseppe助手，佐藤裕久教務  
職員，大北博宣教務職員，斉藤年秀技官。

工業分析化学大講座：小松弘昌教授，鈴木慈郎教授，  
神野清勝教授，青木克之教授，平田幸夫助教授，長  
畦慎一助手，太田初一技官。

工業有機化学大講座：堤和男教授，伊藤浩一教授，  
伊藤健兒教授，竹市力助教授，西山久雄助教授，伊  
津野真一助教授，永島英夫講師，松本明彦助手，川口

正剛助手、坂井悦子技官。

分析計測センター：加藤正直助教授，服部敏明助手。

事務：奥田重美事務官。

藤本忠蔵先生が浜松医科大へ転出され、Pezzotti 先生、大北先生が着任されました。また川口先生がカナダ留学を終え帰国されました。

今年も就職状況は厳しいものであり、炎暑の中での就職活動はまさに試練となったでしょう。状況が悪い

時には、とにかく地道に勉強し、真の実力をつけて機会を待つことが肝要であると思います。それと本業以外にも打ち込めるものを持っていますと、ストレス解消になり役立ちます。

皆様の職場での活躍が後輩への何よりの励ましと支えになるものと思います。皆様の益々のご健勝とご発展をお祈りいたします。

## 建設工学系

## 草間晴幸

● 昨年の冷夏とは一変し、今年は猛暑のうえに水不足、各地で行われた雨乞いの効果もなく、期待した台風もからかうように日本を避け通り、自然に対する人間の非力をまざまざと感じる夏でありました。

同窓会員諸氏におかれましても、御苦労の多い日々であったと推察いたします。

さて、恒例ではありますが、昨年10月から現在までの6系関係の状況報告をさせていただきます。

まず新任の先生を紹介いたします。

平成6年1月1日付けで、計画大講座に、神戸大学大学院自然科学研究科環境科学専攻博士課程を修了された大塚毅彦（たけひこ）助手が赴任されました。大塚先生は昭和37年生まれ、都市計画・生活環境計画がご専門であり、本年10月に学術博士の学位が授与される予定だそうです。独身であり、趣味はドライブと天体観測と伺いました。

● 平成6年4月1日付けで、環境大講座に、本学豊橋技術科学大学の大学院工学研究科建設工学専攻修士課程を修了された山本一伸助手が赴任されました。山本先生は昭和44年生まれ、建築環境がご専門だそうです。独身であり、趣味は映画鑑賞と伺いました。

平成6年7月1日付けで、環境大講座に、東京大学大学院農学系研究科博士課程を修了された東伸行助手が赴任されました。東先生は行動生態学がご専門で、「マイワシの摂餌に関する行動生態学的研究」で農学博士の学位を授与されております。本学で農学博士の学位を持っておられる先生は二人しかみえないそうです。ご結婚されており、趣味はバードウォッチングと伺いました。

一方、平成6年1月1日付けで、環境大講座の和田清助手が岐阜工業高等専門学校土木工学科の助教授にご栄転されました。和田先生の新しい職場での益々のご活躍を期待いたします。

また、長年、6系において精力的に研究・教育にあたられてきた木曾祥秋講師が、本学8系のエコロジー工学系の助教授に昇進されました。しかし、昨年度、8系に移られた北田敏廣先生と同様に、今後も引き続き6系学生の講義・研究指導も担当されます。なお、北田先生は平成6年4月1日付けで8系の教授に昇進されました。

平成6年9月現在における6系の研究・教育体制は以下のとおりです。

[構造大講座] 定方教授、栗林教授、角教授、加藤教授、河邑助教授、山田助教授、草間助教授、浅草助手、高島助手、雷教務員

[環境大講座] 北尾教授、本間教授、中村教授、松本助教授、青木助教授、東助手、山本助手

[計画大講座] 小野木教授、三宅教授、渡邊教授、瀬口助教授、廣昌助教授、大貝助教授、森助手、西澤助手、大塚助手

[8系・協力] 北田教授、木曾助教授

今年度の6系系長は昨年度に引き続き小野木先生、系長補佐は本間先生、就職担当は三宅先生です。不況を反映して就職戦線の厳しい中（特に女子学生）、6系一丸となって努力しております。この社会的傾向はしばらく続くかと思っております。同窓会員諸氏のご支援のほど、今後ともよろしくお願いいたします。

## 知識情報工学系

卒業生、修了生の皆様、それぞれの職場で益々ご活躍のことと思います。

まず、本年も知識情報工学系教官の動きがありましたのでお知らせ致します。情報科学コースにNTTソフトウェア研究所より磯田先生が8月に教授として着任されました。阪田先生は4月に電気通信大学電気通信学部情報工学科へ教授として転出されました。

分子情報工学コースの作田先生は4月に鳥羽商船高等専門学校へ講師として転出されました。

機能情報工学コースの吉澤先生は4月に東北大学大学院情報科学研究科の助教授として赴任されました。

社会経済情報コースの氷鉋先生は2月に筑波大学農林工学系は教授として赴任されました。また赤松先生は野村総合研究所から講師として赴任されました。朝日先生は4月に明海大学経済学部へ教授として転出されました。

このように、かなりの教官が移動されました。以下に平成6年9月現在の知識情報工学課程、知識情報工学専攻および知識情報工学系の構成を示します。

学 部：1年生13名，2年生19名，  
3年生53名，4年生53名  
修士課程：1年生48名，2年生51名  
博士課程：1年生8名，2年生5名，3年生2名

[情報科学コース]

教 授：齊藤制海，磯田定宏

## 宮 下 芳 勝

助 教 授：増山 繁，河合和久

助 手：鶴見 智，徐 粒

[分子情報工学コース]

教 授：大澤映二，阿部英次（系長補佐）

助 教 授：宮下芳勝，高橋由雅，船津公人

講 師：デル・カルピオ・カルロス・アドリエル

助 手：本多一彦

[機能情報工学コース]

教 授：伊藤嘉房（系長），山本眞司，吉田辰夫

助 教 授：杉田陽一

助 手：神山齊己，江 浩

[社会経済情報コース]

教 授：鈴木 康

講 師：赤松 隆

[事務局]

教務係（技官）：小西和孝

学 系 係：河合孝弘

昨年と同様に不況の影響で就職状況はかなり厳しいものになっております。しかし就職担当の山本先生の指導のもとなんとか山場は超えることができました。知識情報工学系の歴史はまだ浅いかもかもしれませんが、我々としては良い伝統と気風を作り上げるよう努力したいと思います。

最後に、皆様の健康とご活躍をお祈り致します。

## エコロジー工学系

平成5年度に発足したエコロジー工学系は、現在1年生15名，2年生14名ですが、平成7年4月には3年生を迎え入れて本格的に立ち上がろうとしています。カリキュラム、新しい建物など、系内あるいは学内のいろいろな方々と準備やすりあわせにスタッフは忙しい毎日を過ごしております。

そのメンバーを紹介すると以下のとおりです。

系 長：大竹一友（教授）

系長補佐：水野彰（教授）

[生物基礎工学大講座]

鈴木慈郎（5系教授・協力教官，H7. 3. 1 8系へ配

## 鈴 木 慈 郎

置換え)

菊池洋（教授，H7. 2.1 着任）

SIDDIQUI, Shahid Saeed（助教授）

安田八郎（助手）

長畦慎一（5系助手・協力教官，配置換日は未定）

[生物応用工学大講座]

水野彰（教授）

藤江幸一（教授，H6. 8. 1 着任）

桂進司（助手，H5. 10.1 着任）

胡洪宮（助手，H6. 6. 1 着任）

辻秀人（技術開発センター助手・協力教官）

## [生態環境工学大講座]

大竹一友 (教授)  
北田敏廣 (教授)  
木曾祥秋 (助教授, H6. 4. 1 8系へ配置換え)  
吉川典彦 (助教授, H6. 4. 1 8系へ配置換え)  
金熙濬 (助教授, H6. 4. 1 着任)  
成瀬一郎 (助手)

## [事務]

大井美知子  
さらに田中三郎 (助教授, H7. 3. 1 予定), 黄霞 (助教授, 着任の時期は未定) のお二人が加わることにな

っています。

他の系から移られた教官もおいでですが, 新たに着任される方々も増えました。同窓会の皆様, 御存知の先生方が新しい系でどんな顔をしているのか, あるいはエコロジー工学系ではどんな事をしているか, ふらっと覗くとか, どんな理由でも結構ですから機会をつくってお立ち寄り下さい。

これまでの枠組みにとらわれずに, 広い意味での「地球規模の工学」をめざそうとする, 皆様の後輩, スタッフ一同に暖かいエールを送る, あるいは遠慮のない批評をして下さるようお願いいたします。

## 人文・社会工学系

平成6年1月以降の系内の動きをお知らせしましょう。

昭和53年4月に本学に赴任され, 教育・研究に尽力された大久間慶四郎先生が3月31日をもって停年退官され, 名誉教授になられました。先生の今後の益々の御健康と御発展を祈念します。

大久間先生の後任として相京邦宏先生を講師としてお迎えしました。

山本淳先生 (語学センター) と安田好文先生 (9系) がそれぞれ4月1日, 5月1日付けで教授に昇任されました。

以上が人事関係ですが, 先生がたの海外研修活動をお知らせします。

小杉先生がジャン・モネ大学 (フランス), 河合先生

## 野村 武

がボンド大学 (オーストラリア), 浜島先生がレーゲンスブルグ大学 (ドイツ) での研究を終えて4月までに帰国されました。

文部省在外研究員 (長期) として, 野澤先生が6月11日に日本を發ち, ボンド大学 (オーストラリア) で平成7年4月9日まで滞在され, 英語教育法の研究に従事されます。

山内先生, 村松先生 (天津大学: 中国), 伊藤先生 (トリニティ・カレッジ: アイルランド), 西村先生 (グラスゴー大学: イギリス), 加藤先生 (マニラ) が研修, 学会, 視察, 学術交流などで海外に出張されました。

そのほか特記することはありませんが, 9系の教職員一同, 元気で頑張っています。



## 退官教官より

平成5年度

※この原稿は、大学の協力により「天伯」から転載したものです。

### 私が豊橋技術科学大学について話してきたこと

副学長  
高橋 正



豊橋技術科学大学は、教官の質の高さについて、技術・科学分野で高く評価されている。しかしながら、大学の特殊性、少ない学生定員、立地条件等のため、目立たない大学であることは残念なことである。優れた学生を引き付けるためにも、本学を世の中から見え易い大学、分かり易い大学にするよう努力する必要があると考え、私が社会に向かって話し続けてきた事柄を、書き留めたい。

『豊橋技術科学大学は、実践的・創造的な能力を備えた指導的技術者を養成することを目的とした、工学部、工学研究科からなる大学院に重点を置いた大学で、学部・大学院修士課程一貫の教育を行っている。

その大きな特徴の第一は、広く門戸を開いた大学で、高校、工業高校、高専、短大、一般大学、社会人、留学生と夫々に適した選抜法で、相応する段階に学生として受け入れている。この環境は、当事者の心構えと対応によって、学問の学習、人格の陶冶の場として最も適したものとなる。第二は、近年叫ばれている大学改革の目標を先取りして創設された大学で、改革を要する事項につき、十有余年の経験と実績を有し、教育研究のより一層の充実に向けて努力を続けていることである。本学の特徴について詳しく述べてみたい。

○学部・大学院一貫教育—学部と大学院修士課程を一貫した体系のもとに技術科学についての教育研究を行う大学院に重点を置いた高等教育機関として設立された。修士課程学生定員は学部学生定員とほぼ等しく、他の国立大学ではこの割合は多くとも50%程度以下である。

○博士課程—修士課程を基礎とし、各専門分野を複合した博士課程を設置し、大学院大学としての教育研究の体制を整えている。工学系博士課程を持つ国立大学は40大学ある中で、工学部所属の教官の殆どが、博士課程担当となり得る大学は17大学である。本学はそのうちの一つであり、本学の教官の質の高さを示している。

○国際交流—教官は国際的研究活動に積極的であり、教官当りの国際交流実績は国立大学中上位にあ

る。多数の留学生を受け入れており、全学生人員に対する比率は7%を超え、全国立大学中第3位である。また、発展途上国の教育開発計画にも協力している。

○産業界との密接な関係—学生には学部の最後に2か月間の実務訓練を課し、企業等における体験を大学院の研究に資することとしている。教官は、企業の指導、共同研究に非常に積極的であり、その結果として、奨学金寄付金、共同研究も多く、その実績は国立大学の上位に位置している。

○社会に開かれた大学—社会への貢献として多くの研修会が企画されている。例えば、高専教官のための情報処理教育担当者上級講習会、技術者のためのミニ大学院アフターファイブコース、高校教員向けの情報処理集中研修会、一般向けの公開講座等が定期的に開催されている。また、多くの教官が地域で催される技術交流会・研究会、産学交流サロン等にも講師として参加している。

優れた研究者、必ずしも善き教育者とは限らないとの自戒のもと、学生が入ってきてよかったと思える大学を目指して、教育法の改善が進められている。大学設置基準の大綱化を受けて、個性豊かな教育を自由かつ創造的に展開でき、かつ多様な背景と資質の学生が対応できるようなカリキュラムが制定された。また学生の計画的な授業の履修に資するため「授業紹介（いわゆるシラバス）」が試験的に作られ、平成6年度から全教科を網羅したものが作成される予定である。さらに、学生の受講態度、授業課題に対する興味の持ち方、授業時の理解度、到達度等を教官が客観的に把握し、授業の改善に資するため、「学生の授業調査」を全学的に実施することとなっている。

これまで述べた事柄は、近年多くの大学が改革の目標として、計画を立ち上げようとしているところであるが、本学では既に実行に移し、その成果を挙げつつあり、さらに自己点検、評価を厳しく行い、より一層の向上を目指して、全学あげて努力している。』

以上が、私が豊橋技術科学大学について話してきたことの概要であるが、豊橋技術科学大学がその全構成員の一層の努力によって、内容のより充実した大学となり、若者にとって「入りたい大学」になることを願って止まない。

## ろく 安禄山とロクサネ

人文・社会工学系 教授  
大久間 慶四郎



安禄山、姓は安で名は禄山。営州柳城の出身の雑胡。唐に仕えて累進し、ついには三節度使を兼ねるに至り、時の皇帝である玄宗の寵愛を裏切って、天宝十四載(755年)に挙兵して反乱を起こ

した。太平に慣れた唐軍は安禄山の率いる異民族を中心とした反乱軍に抗し得ず、玄宗は長安を棄てて蜀に蒙塵し、安禄山は皇帝を称して国を大燕と号した。しかし、内紛の結果、安禄山は殺されて部下の史思明が乱を継ぎ、安史の大乱が九年間に亘って続いた。白楽天の「長恨歌」は人口に膾炙しているが、その中の一節に「漁陽ノ鞞鼓地ヲ動カシ来タリ、驚破ス霓裳羽衣ノ曲」とあるように、華やかな盛唐の時代は安史の乱をもって終わり、唐は衰微の道をたどる。安史の乱は唐末の黄巢の乱と異なる民族戦争の面が見られるが、それは安禄山が非中国人であり、史思明がトルコ人であった事よりも知り得るのである。安禄山は父がイラン系のソグド人で、母はトルコ系の突厥人であったとされる。雑胡とは雑種の胡人の意味であり、安禄山は異民族の混血児であって中国人では無かった。胡とは秦・漢代には主に匈奴を指したが、唐代では西域のイラン系の人々が胡と呼ばれる事が多かった。シルクロード沿線にはイラン系の住民が多く住んでおり、当時の中央アジアは現在のようにトルキスタン(トルコ人の地)ではなく、アリアスタンと呼ぶべき土地であった。鬼才と称される唐の詩人の李賀は、「鬢髮ノ胡兒眼睛緑ナリ、高楼夜静ニ横竹ヲ吹ク、一声天上ヨリ来ルニ似タリ、月下ノ美人郷ヲ望ミテ哭ス」と歌い、胡人が巻き毛で眼が碧いアリア人タイプであった事を述べ、同じく詩人の岑参は「紫髯緑眼ノ胡兒」と表現している。(なお、日本では作家をむやみに鬼才と称するが、中国では鬼才は李賀一人であり、その特異で幻想的な作風から来た言葉である。中国の鬼と日本のオニは内容が異なる。)中央アジアの大部分は、青銅器時代には白色人種の居住地であったが、その後も白色人種が中国の近くまで居住していた。19世紀

末に発見されたトカラ語は印欧語族に属する死語であるが、シルクロードの入り口近くのトゥルファンその他で使用された。また、匈奴に駆逐された月氏は白色人種であった。安禄山の父方の系統であるソグド人は、アラル海に注ぐザラフシャン河の流域のソグディアナの住民であり、中国ではその地方を粟特と音訳している。大小のオアシス都市国家が散在し、現在にまで続くものとしてサマルカンドやボハラが名高い。ソグディアナは肥沃で農業が発達したが、商工業も栄えてソグド商人はシルクロードを始めとする通商貿易路で活躍し、ソグド語は共通語として用いられた。多くのソグド商人が中国を訪れたが、中国では彼らの国々を康国、安国、米国などと呼び、安禄山の安はその系統がボハラより来ている事を示している。安禄山はアレクサンダーの音訳と云う説があるが、これは誤りである。問題は禄山であるが、これはソグド語の *ruksn* (luminous) の音訳と考えられ、古代ペルシアのアヴェスタ語 *raoxšna* と関係付けられる。生まれた子が「光り輝くような子」に育つ事を願った命名であろう。次にロクサネであるが、ロクサネはアレクサンドロス大王の愛妃として名高く、大王が征服したアケメネス朝ペルシアの属州であったソグティアナの豪族であるオクシアルテスの娘であった。ロクサネ (*Ρωξάνη*, ロークサネー) はギリシャ語読みであるが、安禄山の禄山に対応する女性形と考えて良いであろう。アレクサンドロスはロクサネを愛して結婚したとされるが、東西の民族の融合を図る大王の政略結婚の意味もあつたのであろう。安禄山は「腹ハ垂レテ膝ヲ過グ」と云われた醜い肥太漢だったと伝えられるが、ロクサネはその名に相応しい美女であり、その彫刻が遺されている。しかし、ロクサネはアレクサンドロス没後の「後継者戦争」の渦中に巻き込まれて、夫の忘れ形見である小アレクサンドロス4世とともに殺された。ロクサネの彫刻は、その愁いをたたえる面差しが人の心を惹くが、戦争と政治に翻弄された可憐で美しい女性の悲しみを訴えているように思われてならない。

## \*同窓生がお世話になった方々より\*

### 今日、思うこと

3・4系事務室の仕事に従事してもう3年以上になりますが、先生と学生に接する時間が事務局よりも多く、そのせいか割と自由に振る舞えるのが何よりも気楽な感じがします。学生ともっと接すると良いのではないかと思いますが、現実是对応しきれないのでほどほどになってしまい、後でもっと話をしたかったなあと思う時があります。また、まわりが忙しく動き回っていても自分だけは割にマイペースで、これでいいのか不安になることがあります。結果良ければ特に問題はないと思ったりしてその場を過ごしてしまう毎日です。

さて、学生さんは卒業されて大学時代とは違い、会社等で割とハードな毎日を過ごし、電車通勤のようにいつのまにか人や時間に流され年を重ねてしまうのではないのでしょうか。そして時々学生時代を振り返り本大学を懐かしく思われるのではないのでしょうか。本大学も最近では学内で緑が多くなり、自然に囲まれつつあります。心にやすらぎを覚え精神的に休息できる時間が持てるようになった気がします。また、人も若返

3・4系事務室 伊藤良隆

り近代的な考え方も通るようになったせいかエネルギー感を感じられます。

しかし、世の中が情報化社会へ移行するにつれ、何か人間そのものもコンピューター化してしまわないとついていけないようなそんな不安にもかられます。それに加えて留学生も増え、国際化が叫ばれる中で、ほんやりしていると自分だけが一人とり残されてしまう焦燥感もついてきました。その結果何か余裕のない人が増えてきたような気がします。もっとのんびりしたゆとりのある人生を送れるような大学、職場になってほしい気がする今日この頃です。

いづれにせよ、皆さんも同じ考えでしょうが、この大学も発展をし、歴史を積み重ね、皆さんが作られた大学でもあるのですから、再度訪れた際に何か心の支え、やすらぎといったものを得ていただければ幸いです。偉そうな事を言って申し訳ありませんが、思いついた事を書くこの作業も終わらせていただきたく思います。

### 真 理

卒業生、終了生の皆様、不況、水不足の中、それぞれの分野でご活躍のことと思います。

技術開発センターができ、はや14年が経とうとしています。最初は、SEM, 75KVTEM, AESで始まったセンターも、現在では、SEM (EDX付) 2台、200KVTEM, SIMS, AES2台、ESCAなどの多数の

村本浩一

分析装置が置かれています。現在は、新しく導入されたAES, ESCAの立ち上げ、新規の200KVTEMの設置準備に負われ、慌ただしい日々を過しています。

さて、最近読んだ本の一文を卒業生、修了生の皆様に送ります。危険をはらむ現代の科学の無気味な成り行きをながめるにつれ、科学者が掘り出してきた「真

理」の中には、むしろ知らずにいたほうがよいものもあつたのではないか。「真理」の探求は、絶対な善として推薦できるものか。……「真理」の探求を絶対の善と考えるのは、勤勉を誇りとする科学者の無邪気な思い込みにすぎない。「真理」の発見が科学者の本能としたら、いまや、この本能を制御することこそ科学者として取り組むべき最大の課題なのではあるまいか。……「真理」の意味そのものを問うような知恵のある哲学者になれ。

「大学とは」と考えたとき、あるカリキュラムに従って、教育、管理される義務教育と違い、真理の深求を思う存分できる唯一の自由な時間ではないかと。……そして、自分の時計に自分でぜんまいを巻き始める大事な時間ではないかと考えます。私自身、卒業生、修

了生の皆さんが、技科大で空くなき真理の深求を行っている姿を間近で感じ、自分自身の時計にぜんまいを巻き直す毎日です。

卒業生、修了生の皆様、これからも様々な困難に遭遇すると思いますが、技科大で学んだ日々を思いだし、真理の意味そのものを問える知恵のある哲学者として、人類の未来と富と幸福のために貢献してください。

くれぐれも技科大が母校であることを忘れずに。

人生に迷ったときには、ぜんまいを巻き直しに技科大へ。

追伸、技科大へお越しの際は、ぜひ、技術開発センターにお立ち寄り下さい。

## 求む 投稿・表紙！！

### ■ 表紙

写真、絵、グラフィックデザイン等何でもOK!

- ・サイズ：B5版程度に縮小、拡大可能なもの。
  - ※CM的な要素のものを除く。
- 採用の場合は薄謝を送付致します。

### ■ 投稿

23字/行 横書き 厳守

その他：内容・長さ等は問いません。写真も添えていただければ幸いです。

随時、受け付けますので下記まで送付下さい。

〒441 豊橋市天伯町字雲雀ヶ丘1-1  
豊橋技術科学大学内  
同窓会事務局  
同窓会誌 編集係

### ■ 会員からの一言

同窓会では会員の皆さんからの原稿を常時募集しておりますが、執筆するとなると、それなりの内容とある程度の長さが必要であるということ、ついついかしこまってしまうのではないのでしょうか。そこでもっと気楽に投稿していただけるように、「会員からの一言」というコーナーを設けたいと思います。「結婚しました」とか「?月?日OB会開催」といった簡単な近況報告や連絡事項など、内容、長さは問いません。住所変更の通知や会費振替用紙の通信欄にでも結構ですし、もちろん葉書、封書で直接送っていただければ大歓迎。原則としてすべて掲載する予定ですので、どしどしお寄せください。投稿の際には、お名前、卒業あるいは修了年度、学科名をお忘れなく!

「頼まれた原稿は 今すぐポストへ」

編集委員からのお願いです。

## \*研究室だより\*

## 「現名：計測システム研究室」

## 研究室一同

旧名、材料加工システム研究室から計測システム研究室に名前が変わり3年近くの月日が経ちます。現在の研究室の所在地はおそらく昔も今も変わっていないと思いますがD3棟の5階に陣取っています。研究室の人員構成を紹介したいと思います。北川孟先生をはじめ三宅哲夫先生、堀畑聡先生の3名の教官と、M2が4名、M1が5名、B4か8名（本当はもう1人いることになっている）の20（21）名により構成されています。他の研究室と比べ大変コンパクトにまとまっています。

研究室での主な活動を紹介します。まず初めに、2系恒例の早朝野球の戦績を報告します。

平成4年度 準優勝（リーグ戦）

平成5年度 7位（ク）

平成6年度 初戦敗退（トーナメント方式）

と、いった感じです。野球の方は情けない成績を納めていますが、3年ほど前から始まった3研対抗（計測システム、システム解析、機械材料or工程制御）の助手杯バレー&バスケットボール大会においては3期連続優勝と他研を圧倒しています。また、システム解析研究室との間で行われるグラウンド一面を使用したサッカーの定期戦では3勝2敗と今のところ勝ち越しています。話は変わりますが、我が研究室ではM1になると各人に輪講係、旅行係、飲み会係、レク係、駄菓子係なる称号が与えられます。駄菓子係以外はだいたい

想像がつくと思いますが、駄菓子係とは何かとお思いでしょう。我々の研究室では、研究室の一角の憩いの場に駄菓子コーナーを設け販売し、この売り上げの利益をもってジャンプ、マガジンといった週刊誌を購読するといったシステムが導入されています。このため、定期的に駄菓子問屋に行き駄菓子を仕入れてくる係が必要とされるのです。これらの各係によっても研究室中における活動が進められています。旅行係による年2度（春・夏）の研究室旅行、飲み会係による新歓、就職祝、追いコン等の飲み会、レク係による月一レク（おもにボーリング、サッカー）などが行われています。旅行係により綿密に計画された旅程に沿って今年の春は野沢温泉へスキー旅行に行き参りました。そして、夏は白馬方面へ出かけキャンプと登山に行ってきました。

最後になって恐縮ですが、現在行われている主な研究は以下の通りです。

- ・ 時間周波数解析
- ・ 非接触計測
- ・ アクティブノイズコントロール
- ・ 境界要素法による音場解析

OBの方々、豊橋に来られたときには是非お寄り下さい、計測システム研究室へ!! そして、駄菓子の売り上げに御協力お願いします。



野沢温泉スキー旅行（H6.3）



白馬方面キャンプ（H6.8）

## 渡邊研究室は現在<sup>いま</sup>

### ◆現在のメンバー◆

・M2 7名：M1 4名

・4年 4名・研究生 1名 総勢16名

今年ももう半分以上がすぎた。

今年の夏は例年になく酷暑が続いた。そのためか研究室にエアコンがないために、3台しかないコンピュータに支障をきたした。

寝苦しく暑い夜の次の朝、眠れなかった旨を告げると「エアコンついてるから」といい答が返り、誰も賛同しない。実はこれほどエアコン普及率が高かったのかとカルチャーショックを受けた。

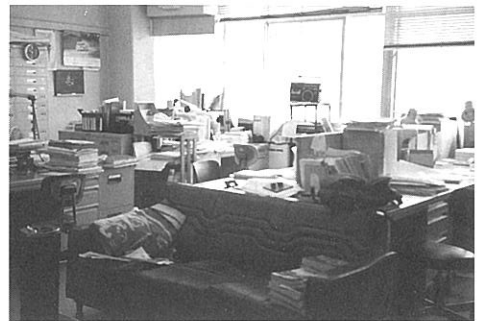
そうこうしている内にもう秋の兆しがしだした。しかしやはり寿命であろうか、コンピュータの調子は益々悪くなるばかりである。

これから卒論、修論の時期を迎えるとなって不安因子となっている事は確かだと思う。今年は特にM2が7人もいてどうやり過ごすのか心配である。

それを過ぎて少しするとメンバーが変わり一年はあっという間に過ぎていく。

しっかり自分でやる事を把握しないと月日は早く過ぎてしまうと思いつつ、4年が配属され随分たつ今、いつ新入生歓迎会を開くべきかと考えている…

6系 M1 渡邊研 中出 桂子



午前10時 戦いの前の静けさか、はたまた朝寝坊か

### ◆渡邊研究室 大まかな年間のスケジュール◆

4月…知識・力の蓄積時間

5月…4年の研究室配属（今年は1人女の子がいて個人的にうれしい）

6月…M2の就職先が決まるまで全体ゼミで勉強

7月…グループゼミが始まる。現在3グループ（空間・福祉・生涯学習）

8月…前半夏休み後半実験に向けて再考

9月…実験・分析のための準備および再考

10月…実験・分析始まる

11月…卒論追い込み

12月…束の間の休息。この間も修論は進む

1月…4年は実務訓練。修論追い込み

2月…修論だしても直しが入る

3月…まだ仕事は溜まっているので晴れて卒業はできない



今日は休日(?) みんなで先生の仕事をしています

## 「エコロジー工学系になった北田研究室」

総合エネルギー専攻 2年 高木 久之

(社会人ドクター学生・勤務先(財)日本気象協会東海本部)

我々の研究室では、現在、エコロジー工学系の教授になった北田先生のもとで大気環境に関する研究をしており、博士課程の学生1人、修士課程が9人、学部の学生が3人所属しています。大気環境というと何か漠然とした感じがしますが、研究テーマも、地表面近くの地域規模の大気から、酸性雨などの多国間の問題、そして地球規模の問題まで広範囲に及んでいます。私が学部の学生で入った頃(7年前です)は、エコロジー工学系はまだ無く、北田研究室は建設工学の所属系でした。建設といえば、建物、道路、橋などを設計或いは施工するということがメインで、その中で大気環境について研究するという事は、異質な感じがしました。また、研究の方法も「実験」ではなく、「数値計算」によって行うというのも当時としては変わっていると感じました。このように私が学部で研究室に入った当初は、研究室の学生が少なかったこともあり、少々違った所へ来てしまったなという感じを抱きました。しかし、現在はエコロジー工学系ができ、私達の研究テーマの大気環境が注目されるようになってきました。実際に、研究室で扱っている、「地球の温暖化」、「酸性雨」、「ヒートアイランド」というテーマが、テレビなどで話題になることが多くなりました。また、「数値シミュレーション」という手法も現在では、むしろ主流となってきました。

このように研究テーマ、研究方法とも時代の波にのってきたこともあり、研究室の学生も先述したよう

に、現在13人となっており過去最高となっています。また、来年からは、博士課程の学生が2人加わる予定で、更に増える見込みです。あとは、私達が頑張って研究成果をだせるかということが問題かと思えます。さて、研究室の雰囲気ですが、どちらかと言えばのんびりした方かもしれません。計算機が相手ということもあって、特に時間を気にしないせいもあるかもしれません。そのせいなのか、卒論、修論の提出は遅い方で、提出後に手直しということが、当然のようになっています。しかし、このようにして最後の粘りで研究は積み重ねられていき、初めのうちは、とんでもない結果をだしていたプログラムが、合理的な結果を出すようになり、その結果が学会でも発表されるようになっています。

ところで、今年度、北田先生が教授に昇進されたことを機に、研究室の同窓会を開きました。今でこそ研究室の学生は多いのですが、以前は少数精鋭(?)で北田研出身のOBは、それほど多くはありません。しかし、1~13期まで、なんと13人のOBの方に参加して頂きました。過去の研究室についてなど色々な話を聞くことができました。

我々の北田研は、研究テーマは同じ大気環境ですが、建設からエコロジーへと変わりました(学生はまだ建設系の学生ですが)。研究室の規模も大きくなっており(部屋も1つ増えました)。OBの皆様、エコロジーへと変わった研究室へ1度遊びに来て下さい。



北田研究室同窓会(蒲郡にて、1994、7、23)

## 平成5年度修了・卒業生就職先一覧

No	就職内定先	学部	修士	博士	計	No	就職内定先	学部	修士	博士	計	No	就職内定先	学部	修士	博士	計
一 般 企 業																	
1	アイシン・エイ・ダブリュ(株)		1		1	53	KTIセミコンダクター(株)		1		1	106	第一精工(株)	1			1
2	アイシン工業(株)	1			1	54	(株)建築環境研究所		1		1	107	第一耐火煉瓦(株)		1		1
3	アイシン精機(株)		2		2	55	(株)小糸製作所		1		1	108	ダイダン(株)		1		1
4	アイセロ化学(株)	2	2	1	5	56	(株)鴻池組		1		1	109	大同特殊鋼(株)		2		2
5	愛知電子	1			1	57	(株)神戸製鋼所		4		4	110	大同メタル工業(株)		1		1
6	愛知海運産業(株)		1		1	58	光洋精工(株)		1		1	111	大日本印刷(株)		1		1
7	(株)A i H O		1		1	59	国際電気(株)		1		1	112	大日精化工業(株)		1		1
8	旭硝子(株)		2		2	60	コニカ(株)		1		1	113	大日インキ化学工業(株)		1		1
9	旭テック(株)		1		1	61	小橋電機(株)	1			1	114	大日本土木(株)		1		1
10	アスモ(株)		1		1	62	(株)コベルコ科研		1		1	115	(株)ダイヘン		1		1
11	新井産業(株)	1			1	63	(株)コンピュータ・テクノロジー・インテグレーション		1		1	116	大和ハウス工業(株)		1		1
12	アンデス電気(株)	1			1	64	五洋建設(株)		2		2	117	中央精機(株)	1			1
13	アンリツ(株)		2		2	65	(株)三栄建築事務所	1			1	118	中外炉工業(株)	1			1
14	(株)イーパック	1			1	66	三協アルミニウム工業(株)		1		1	119	中電コンピューターサービス(株)	1	1		2
15	(株)飯島健築事務所	1			1	67	(株)三共製作所	1			1	120	(株)中部テラオカ	1			1
16	(株)石井鐵工所		1		1	68	サンクス(株)	1			1	121	中部テレコミュニケーション(株)	1			1
17	石川島播磨重工業(株)		2		2	69	サン電子(株)		1		1	122	中部ガス(株)		1		1
18	(株)伊勢吉		1		1	70	シーケーディー(株)		1		1	123	中部電力(株)		1		1
19	(株)一条工務店	1			1	71	塩野香料(株)		1		1	124	中部住宅販売(株)		1		1
20	内田油圧機器工業		1		1	72	(株)塩浜工業		1		1	125	(株)T Y K		1		1
21	(株)浦野設計		1		1	73	四国電力(株)		1		1	126	帝国ピストンリング(株)		1		1
22	エヌエスケー・ワーナー(株)		2		2	74	静岡日本電気ソフトウェア(株)	1			1	127	テクノシステム(株)	1			1
23	N O K (株)		1		1	75	(株)島津製作所		1		1	128	(株)寺岡精工	1			1
24	N K K (株)		2		2	76	昭和アルミニウム(株)		1		1	129	電源開発(株)		1		1
25	N T N (株)		1		1	77	シライ電子工業(株)	1			1	130	(株)トーエネック	1			1
26	NTT 移動通信網(株)		1		1	78	シロキ工業(株)		1		1	131	トート(株)	1			1
27	NTT データ通信網(株)		1		1	79	信越石英(株)		1		1	132	(株)トーマー		1		1
28	NTT ソフトウェア(株)		1		1	80	神鋼電機(株)		1		1	133	東海カーボン(株)		1		1
29	(株)エム・アイ・ティー	1			1	81	新神戸電機(株)		1		1	134	東海ゴム工業(株)			1	1
30	オークマ(株)		2		2	82	新日鉄情報通信システム(株)		1		1	135	東海テクシス(株)		1		1
31	大阪セメント(株)		1		1	83	新日本空調(株)	1			1	136	東京電力(株)		1		1
32	(株)大林組		1		1	84	新日本製鐵(株)		4		4	137	(株)東芝		5	1	6
33	岡山新見工業(株)		1		1	85	新明和工業(株)		1		1	138	東芝インテリジェントシステム(株)		1		1
34	沖電気工業(株)		2		2	86	新菱冷熱工業(株)		1		1	139	東芝情報システム(株)	1	1		2
35	(株)奥村組		1		1	87	ジャパンイーエム(株)	1			1	140	東芝情報制御システム		1		1
36	(株)オノコム		1		1	88	スズキ(株)		2		2	141	東芝セラミックス(株)		1		1
37	オリンパス光学工業(株)		1		1	89	住友金属工業(株)		2		2	142	東電ソフトウェア(株)		1		1
38	オルガノ(株)		1		1	90	住友電気工業(株)		1	1	2	143	東陶機器(株)		1		1
39	川崎重工業(株)		1		1	91	(株)セガ・エンタープライゼス	1			1	144	東邦チタニウム(株)		1		1
40	(株)関電工	2			2	92	積水ハウス(株)		1		1	145	東邦ガス(株)		1		1
41	キャラクター工業(株)		1		1	93	摂陽明正(株)	1			1	146	東北特殊鋼(株)		1		1
42	キャノン(株)		1		1	94	(株)ゼクセル		1		1	147	東北電力(株)		1		1
43	キャノン電子(株)		1		1	95	ソニー(株)		2		2	148	東横化学(株)		1		1
44	九州松下電器(株)		2		2	96	(株)大紀アルミニウム工業所		1		1	149	東レ(株)		2		2
45	京セラ(株)		2		2	97	(株)大気社		1		1	150	東レエンジニアリング		1		1
46	(株)協豊製作所	1			1	98	大成建設(株)		1		1	151	凸版印刷(株)	1	1		2
47	(株)きんでん		1		1	99	(株)高岳製作所	1	2		3	152	トビー工業(株)		2		2
48	(株)金門コルツ		1		1	100	タカヤ(株)		1		1	153	(株)巴コーポレーション		1		1
49	(株)クボタ		1		1	101	高木化学研究所		1		1	154	豊田合成(株)		1		1
50	クラベ(株)		1		1	102	タクトシステムズ(株)				1	155	トヨタテクノサービス	1			1
51	クラリオン(株)		1		1	103	竹本油脂	1	1		1	156	豊橋工倶西島鉄工所		1		1
52	グンゼ(株)		1		1	104	(株)竹中工務店		1		1	157	同和鋳業(株)		1		1
						105	タツタ電線(株)		1		1	158	中平建設(株)	1			1



No	就職内定先	学部	修士	博士	計
159	中日本建設コンサルタント(株)		1		1
160	ナトコペイント(株)		1		1
161	(株) ナブコ		1		1
162	西松建設(株)	1			1
163	ニチアス(株)		1		1
164	日機装テクニカ(株)	1			1
165	日揮(株)		1		1
166	(株)日協製作所		1		1
167	(株)日研工作所		1		1
168	(株)日鉦共石		1		1
169	日産自動車(株)		1		1
170	ニッタ(株)	1			1
171	(株) Nitolex		1		1
172	(株) ニテック		1		1
173	日本アビオニクス(株)	1	1		2
174	日本板硝子(株)		1		1
175	日本オーテス・エレベータ(株)	1			1
176	日本ガイシ(株)		2		2
177	(株)日本コーリン		1		1
178	日本サン・マイクロシステムズ(株)		1		1
179	日本酸素(株)			1	1
180	日本テレコム(株)		1		1
181	日本電気(株)		3	1	4
182	日本電気ソフトウェア(株)		1		1
183	日本電気エレクトロニクス(株)		1		1
184	日本電気硝子(株)		1		1
185	日本電信電話(株)		3	1	4
186	日本特殊陶業(株)	1	1		2
187	日本ハイバック(株)		1		1
188	(株)日本ピーエス		1		1
189	日本分光(株)		2		2
190	日本プロト(株)		1		1
191	日本マランツ(株)		1		1
192	日本モトローラ(株)		1		1
193	(株)野村総合研究所		1	1	2
194	(株) 問 組		1		1
195	羽田コンクリート工業(株)		1		1
196	パプコック日立(株)		1		1
197	パシフィックコンサルタンツ(株)	1			1
198	(株) パスコ		1		1
199	(株) パロマ		1		1
200	日本エレベーター(株)	1			1
201	日立化成工業(株)		1		1
202	日立金属(株)		1		1
203	(株)日立情報システムズ	1			1
204	(株)日立情報制御システム	1			1
205	(株)日立製作所		6	2	8
206	日立ソフトウェアエンジニアリング(株)		1		1
207	日立西部ソフトウェア(株)		1		1
208	日立造船(株)		2		2
209	日立中部ソフトウェア(株)		1		1
210	日立電線(株)		1		1
211	(株)日立マイコンシステム		1		1

No	就職内定先	学部	修士	博士	計
212	日野自動車工業(株)		2		2
213	(株) ヒミカ		2		2
214	富士化学(株)		1		1
215	富士ゼロックス(株)		3		3
216	富士通(株)		2		2
217	富士電機(株)		1		1
218	富士電気化学(株)		1		1
219	(株)フジユニバンス		1		1
220	(株)復建技術コンサルタント		1		1
221	古河機械金属(株)		1		1
222	古河電気工業(株)		1		1
223	フロイント産業(株)		1		1
224	北陸電力(株)	1			1
225	本田工業(株)		1		1
226	(株)前川製作所		1		1
227	前田建設工業(株)		1		1
228	(株) マキタ		2		2
229	松下精工サ(株)		2		2
230	(株)松下ソフトリサーチ		1		1
231	松下通信工業(株)		1		1
232	松下電器産業(株)		7		7
233	松下電工(株)		2		2
234	マツダ(株)		1		1
235	マルホ(株)		1		1
236	三浦工業(株)		2		2
237	三井建設(株)		1		1
238	三井造船(株)		1		1
239	三菱アルミニウム(株)		2		2
240	三菱化成エンジニアリング(株)		1		1
241	三菱自動車工業(株)		1		1
242	三菱重工業(株)		2		2
243	三菱電機(株)		1		1
244	三菱電線工業(株)		1		1
245	三菱農機(株)		1		1
246	三菱レイヨン(株)		1		1
247	宮城日本電気(株)		1		1
248	ミヨシ電子(株)		1		1
249	美和ロック(株)		1		1
250	(株)メイクアップ		1		1
251	(株) 明電舎		1		1
252	名菱電子(株)		1		1
253	森田ポンプ(株)		1		1
254	矢崎総業(株)		2		2
255	(株)安川電機		1		1
256	柳瀬真澄建築設計工房		1		1
257	矢作建設工業(株)		1		1
258	山武ハネウエル(株)		2		2
259	(株)和設計事務所		1		1
260	ヤマハ(株)		2		2
261	ヤンマーディーゼル(株)		2		2
262	ユニチカ(株)	2			2
263	横河技術情報(株)		1		1
264	横河電機(株)		1		1

No	就職内定先	学部	修士	博士	計
265	ライトケミカル工業(株)	1			1
266	(株) リコー		1		1
267	リズム(株)	1			1
268	リンナイ(株)		2		2
269	(株)ワイエムシイ	1			1
270	その他(自営業等)	3	2		5
271	名古屋商科大学付属文化専門学校			1	1
272	(学)トヨタ名古屋整備学園 中部日本自動車整備専門学校		1		1
273	(学)東海医療技術専門学校			1	1
274	(株) 気象協会			1	1
275	(株)相模中央化学研究所			1	1
278	(株)ボイラー・クレーン安全協会	1			1
279	日本学術振興会			1	1
小 計		58	288	15	361
国 の 機 関					
280	豊橋技術科学大学		2	2	4
281	名古屋工業大学			1	1
282	三重大学		1		1
283	愛媛大学			1	1
284	呉工業高等専門学校		1		1
285	岐阜工業高等専門学校			1	1
586	大島商船高等専門学校		1		1
587	鈴鹿工業高等専門学校		1		1
289	仙台電波高等専門学校			1	1
小 計			6	6	12
その他の公共機関等					
290	愛知県	1	1		2
291	岐阜県	1			1
292	岡山県	1			1
293	小樽市		1		1
294	豊橋市	2	1		3
295	岡崎市	1			1
296	伊勢市		1		1
297	堺市		1		1
298	神戸市		1		1
299	河内町	1			1
300	日本道路公団	1	2		3
301	宇宙開発事業団			1	1
302	雇用促進事業団		1		1
小 計		8	9	1	18
合 計		66	303	22	391

第43回東海地区国立大学体育大会成績一覧表

番号	種目	順位	優勝	準優勝	第3位	第4位	第5位	第6位	第7位	第8位	備考
1	陸上競技	男	静岡大 10	名大 8	愛教大 6	岐阜大 5	三重大 4	豊技大 3	名工大 2	浜医大 1	
		女	静岡大 6	岐阜大 5	愛教大 4	名大 3	三重大 2	浜医大 1			
2	水泳	男	名大 10	三重大 8	岐阜大 6	静岡大 5	浜医大 4	名工大 3	愛教大 2	豊技大 1	
		女	岐阜大 8	名大 6	愛教大 5	静岡大 4	三重大 3	浜医大 2	名工大 1		
3	硬式野球		名大 8	三重大 6	(静岡大, 愛教大 4.5)		(岐阜大, 名工大, 豊技大 2)				
4	準硬式野球		静岡大 8	名大 6	(愛教大, 浜医大 4.5)		(岐阜大, 名工大, 三重大 2)				
5	テニス	男	名大 10	静岡大 8	浜医大 6	名工大 5	(岐阜大, 愛教大, 豊技大, 三重大 2.5)				
		女	三重大 8	名大 6	静岡大 5	浜医大 4	(岐阜大, 名工大, 愛教大 2)				
6	ソフトテニス	男	名大 8	岐阜大 6	静岡大 5	三重大 4	愛教大 3	名工大 2	豊技大 1		
		女	愛教大 5	岐阜大 4	三重大 3	名大 2	静岡大 1				
7	バスケットボール	男	愛教大 8	名大 6	岐阜大 5	静岡大 4	名工大 3	三重大 2	豊技大 1	(浜医大は出場辞退)	
		女	愛教大 5	静岡大 4	三重大 3	岐阜大 2	名大 1	(浜医大は出場辞退)			
8	バレーボール	男	静岡大 10	名大 8	名工大 6	岐阜大 5	愛教大 4	三重大 3	豊技大 2	浜医大 1	
		女	三重大 5	愛教大 4	岐阜大 3	名大 2	静岡大 1				
9	卓球	男	名大 8	名工大 6	豊技大 5	静岡大 4	三重大 3	岐阜大 2	愛教大 1		
		女	愛教大 5	静岡大 4	名大 3	岐阜大 2	三重大 1				
10	バドミントン	男	名大 8	静岡大 6	岐阜大 5	三重大 4	名工大 3	浜医大 2	愛教大 1		
		女	静岡大 8	名大 6	愛教大 5	三重大 4	浜医大 3	岐阜大 2	名工大 1		
11	サッカー		静岡大 10	名工大 8	岐阜大 6	名大 5	愛教大 4	豊技大 3	浜医大 2	三重大 1	
12	ハンドボール	男	名大 10	岐阜大 8	静岡大 6	浜医大 5	名工大 4	三重大 3	愛教大 2	豊技大 1	
		女	愛教大 4	三重大 3	岐阜大 2	静岡大 1					
13	柔道		名大 8	静岡大 6	(岐阜大, 名工大, 愛教大, 豊技大, 三重大 3)						
14	剣道	男	名工大 10	静岡大 8	名大 6	岐阜大 5	(愛教大, 豊技大, 三重大, 浜医大 2.5)				
		女	愛教大 6	岐阜大 5	三重大 4	名大 3	(静岡大, 浜医大 1.5)				
15	体操	男	静岡大 5	名大 4	名工大 3	岐阜大 2	三重大 1	(愛教大は3名のため団体とは認めない。)			
		女	(岐阜大, 静岡大, 愛教大, 三重大, 名大) (愛教大:2名, 名大:3名のため団体とは認めない。三重大:出場辞退)								
16	馬術		三重大 6	名大 5	(岐阜大, 名工大, 静岡大, 愛教大 2.5)						
17	空手道		名大 10	岐阜大 8	浜医大 6	愛教大 5	名工大 4	豊技大 3	三重大 2	静岡大 1	
18	弓道	男	静岡大 10	愛教大 8	名大 6	三重大 5	名工大 4	岐阜大 3	浜医大 2	豊技大 1	
		女	三重大 8	静岡大 6	愛教大 5	岐阜大 4	名工大 3	浜医大 2	名大 1		
19	アーチェリー	男	岐阜大 5	静岡大 4	三重大 3	愛教大 2	豊技大 1				
		女	三重大 4	岐阜大 3	愛教大 2	静岡大 1					
20	少林寺拳法		名大 8	愛教大 6	三重大 5	豊技大 4	岐阜大 3	静岡大 2	名工大 1		
総合順位		男	名大 142	静岡大 119	岐阜大 86	名工大 73.5	愛教大 71.5	三重大 70	豊技大, 浜医大 36		
		女	愛教大 52	三重大 48	静岡大 42.5	岐阜大 42	名大 33	浜医大 13.5	名工大 7		

(備考) 表中の大学名の右数字は得点を示す。

## 同窓会事務局より会員の皆様へ

### ご 挨拶

(2系5期) 近 藤 秀 範

同窓生の皆様には、お元氣でご活躍の事の思います。

また、今回の阪神大震災で被災された同窓生の皆様、心よりお見舞申し上げます。

さて、本学も開学以来、早いもので、開学20周年を迎えようとしています。

ついこの前、開学10周年記念だったような気がしますが、いつのまにか、それから、もう10年が経ちつつあるということです。そこで、大学を中心に開学20周年記念事業準備委員会を組織し、同窓会としてもそれに賛同、協力をしていくことになりました。つまり、そろそろ開学20周年記念事業の準備に取りかかる時期にきているということです。

同窓会では、開学20周年を記念して時計台の寄贈、20周年記念誌の編纂などの計画を立てております。記念事業に際し、通常予算の範囲では、賄い切れないため、同窓生の皆様にご寄付をお願いすることになる

と思いますが、そのときは、ぜひとも本学の発展のため、本学同窓生の意気を示すためよろしくご協力をお願い申し上げます。

また、同窓生の皆様で、ほかに記念事業として実施できると思われることがありましたら、ぜひともご提案いただければ幸いです。資金、人材、限りがありますが、できる限り協力し、開学20周年記念事業を成功させ、本学を盛り立てて、同窓会の発展のため尽力してまいりたいと考えております。

同窓会設立後、10年を経過しましたが、まだまだ若く、層も薄い同窓会ですが、未来永劫、豊橋技術科学大学のOBが誇りを持って活躍できるようバックアップするための同窓会活動を続けてまいりたいと思います。皆様のご理解とご支援をよろしくお願い申し上げます。

平成7年1月31日

### 同窓会事業報告 (平成5年度から平成6年度)

#### 1. 会報の発行

平成5年度の会報(11号)については、予定から二カ月ほど遅れて昨年度2月(平成6年2月)に発行した。平成6年度の会報(本号)については、今年度中に発行する予定である。

#### 2. 会員名簿第3号の発行

会員名簿第3号は、当初平成4年度の会報(10号)と同時期に発行する予定であったが、会員のデータベースの更新などの作業の遅れによりいままでもその発行が延期されてきた。しかしながら、今年度中の発行は難しいと判断し、今回の会員名簿の発行を中止すること

となった。これは現在、会員のデータベースの整備は名簿担当の役員のボランティアにより行われているが、会員数の増大により新規登録・更新の作業が担当役員の手に負えなくなってきたためである。このことから、データベースの管理を業者に委託することを決めた。

### 3. 卒業記念パーティの開催

新会員の同窓会活動への理解を深めてもらうことを目的に、在学生で構成される学友会との共催で卒業記念パーティをこれまで毎年開催してきた。平成5年度は実施済み、6年度も引き続き実施する予定である。

### 4. 技科学祭への後援

在学生へ同窓会の存在をアピールすることを目的に、平成6年度の技科大祭に資金援助を行った。

### 5. 平成6年度同窓会役員の構成

名誉顧問	佐々木慎一 学長
顧問	…
会長	近藤 秀範 (2系5期)
副会長	橋爪 進 (2系7期)
事務局	橋爪 進 (2系7期)
監事	高島 英幸 (6系6期)
会計担当	奥山 徹 (4系1期)
	山本 幹雄 (4系5期)
	塩見 彰睦 (4系8期)
	石井 宏幸 (4系10期)
編集担当	水嶋 生智 (5系5期)
	川口 正剛 (5系6期)
	佐藤 裕久 (5系7期)
	大北 博宣 (5系13期)
名簿担当	奥山 徹 (4系1期)
	山本 幹雄 (4系5期)
	塩見 彰睦 (4系8期)
	石井 宏幸 (4系10期)
	高橋 岳之 (7系4期)
	神山 斉己 (7系7期)
総会担当	柳田 秀記 (1系1期)
	高島 英幸 (6系6期)

なお、同窓会の構成は、全系を対象とした本会と、生産システム工学系の豊友会、建設工学系の同窓会によって成り立っており、他の団体とは、関係はありません。

## 「 熱意ある 同窓会スタッフ を求めます 」

応募資格：TUT修了・卒業の方  
(名古屋, 豊橋近郊)

勤 務：年3回程度の会議  
及び自宅での作業 (約30hr/年)

待 遇：同窓会規定により優遇  
交通費支給

問い合わせ先：TUT同窓会事務局

## 同窓会平成5年度収支報告および平成6年度予算案

項 目	平成5年度予算案	平成5年度決算	平成6年度予算案
収 入 の 部			
前 年 度 繰 越 金	4,785,235	4,785,235	4,282,253
入 会 金	3,100,000	1,335,000	3,100,000
預 金 利 息	100,000	86,134	100,000
会 報 廣 告 代	100,000	60,000	100,000
小 計	3,300,000	1,481,134	3,300,000
収 入 合 計	8,085,235	6,266,369	7,582,253
支 出 の 部			
会 報 経 費	650,000	565,410	650,000
印 刷 代	600,000	528,000	600,000
投 稿 謝 礼	50,000	34,000	40,000
廣 告 依 頼	—	3,410	10,000
役 員 会 経 費	160,000	24,854	120,000
通 信 費	30,000	854	10,000
資 料 作 成 費	30,000	0	10,000
役 員 手 当	100,000	24,000	100,000
卒 業 記 念 パ ー テ ィ ー	150,000	150,000	150,000
C G コ ン テ ス ト	250,000	0	—
会 費 振 替	970,000	970,000	—
庶 務 経 費	100,000	44,678	100,000
名 簿 管 理	—	—	540,000
小 計	2,190,000	1,754,942	1,560,000
名 簿 会 計 補 填 金	—	262,574	—
次 年 度 繰 越 金	5,895,235	4,282,253	6,022,253
支 出 合 計	8,085,235	6,266,369	7,582,253

## 平成5年度収支 名簿会計 収支決算

収 入	620,074
名簿代金 (143件)	357,500
一般会計補填金	262,574
支 出	620,074
返金	335,360
未返金分	30,000
郵送代	88,250
案内状印刷代	116,721
案内状郵送代	49,743

## \* 豊橋技術科学大学同窓会会則 \*

### 第1章 総則

- 第1条 本会は、豊橋技術科学大学同窓会と称する。
- 第2条 本会は、本部を豊橋技術科学大学内に置く。
- 第3条 本会は、会員相互の親睦を図り、豊橋技術科学大学の発展に寄与することを目的とする。

### 第2章 事業

- 第4条 本会は、前条の目的を達成するため、次の事業を行う。
- (1) 会員名簿の発行
  - (2) 会報の発行
  - (3) 総会の開催
  - (4) その他、本会の目的を達成するために必要とされる事業

### 第3章 会員

- 第5条 本会は、次の会員をもって組織する。
- (1) 正会員 豊橋技術科学大学にかつて学籍を置いた者
  - (2) 準会員 豊橋技術科学大学に現在学籍を置いている者
  - (3) 特別会員 豊橋技術科学大学の現職及び退職教官
  - (4) 賛助会員 本会の目的を賛助する個人または法人で、理事会において推薦された者
- 2 本会会員は、その所在を変更の都度、本会に通知する義務を負う。

### 第4章 組織

- 第6条 本会に次の役員を置く。
- (1) 名誉顧問 (豊橋技術科学大学学長)
  - (2) 会長 1名
  - (3) 副会長 2名(庶務担当)
  - (4) 理事 原則として各系2名
  - (5) 顧問 若干名
- 第7条 本会の役員の出選は、次の各号に定めるところにより行う。
- (1) 名誉顧問は、現豊橋技術科学大学学長とする。
  - (2) 会長、副会長は、正会員のうちから理事会の推薦を得て会員の承認を得る。
  - (3) 理事は、正会員のうちから理事会が推薦した者及び会長の委嘱による者とする。
  - (4) 顧問は、役員経験者もしくは特別会員のうち理事会において推薦された者とする。
- 第8条 本会役員の内任期は2年とする。但し留任は妨げないものとする。
- 第9条 本会の議決機関として理事会及び総会を開催する。

### 第5章 役員

- 第10条 会長は、本会を代表し、会務を総括する。
- 2 副会長は、会長を補佐し、会長に事故あるときは、その職務を代行する。
  - 3 理事は、理事会において意見を述べ、事務局及び本会運営の責務を負う。
  - 4 名誉顧問および顧問は、本会の運営について助言を与え、会長の要請に応じて本会の会務に出席し意見を述べることができる。
- 第11条 理事は、本会の次の具体的な業務の実行を担当する。

- (1) 庶務
- (2) 会計
- (3) 会報の編集、発行
- (4) 理事会、総会など重要な会務の開催及び召集
- (5) 会員名簿の管理

### (6) 監査

- (7) その他、本会の事業全般
- 2 各業務責任者は理事が担当し、業務遂行する。

### 第6章 理事会

- 第12条 理事会は、第6条に定められた役員により構成される。
- 第13条 理事会は、会長の要請により庶務担当が開催の責務を負う。
- 第14条 理事会は次の事項を審議する。
- (1) 本会の事業の運営に関する事項
  - (2) 事業報告及び決算報告
  - (3) 事業計画案及び予算案
  - (4) 賛助会員の推薦に関する事項
  - (5) その他、本会の運営に関する議案
- 第15条 理事会の議決は、理事会に出席している役員の過半数の賛成を必要とし、可否が同数のときは、議長が決める。理事会の議長は会長が務める。理事会に欠席した役員の議決は、出席している役員の総意に委ねたものとみなす。

### 第7章 総会

- 第16条 総会は、定期総会と臨時総会とし、会長が召集する。
- 2 定期総会は、4年に1回開催することを原則とする。
  - 3 臨時総会は、会長が、その必要を認められた時、開催する。
  - 4 会長は、総会を召集するとき、事前に文書で正会員に通知しなければならない。
- 第17条 総会は次の事項を審議し、承認または議決する。
- (1) 会則の制定・改廃
  - (2) 事業計画及び収支予算案
  - (3) 事業報告及び収支決算案
  - (4) その他、本会の運営に関し重要な事項
- 第18条 総会の議事は、出席正会員の過半数で決め、可否が同数のときは会長が決める。議長は、会長が務める。

### 第8章 会計

- 第19条 本会の運営に必要な経費は、会費、寄付金、その他の収入をもってこれに充てる。但し、必要に応じ、理事会での議決、総会での承認を得て臨時費を徴収することができる。
- 第20条 本会の正会費は、次のとおりとする。
- (1) 入会金 5,000円
  - (2) 終身会費 10,000円
- 2 会費の納入は入学時に一括して行う。在学中は、準会員としての資格を得る。
- 第21条 既納の会費は原則として返納しない。但し、準会員が、卒業もしくは修了以前に学籍を離れる場合に限り、半年以内に請求があれば、返納する。その場合、会員資格を失う。
- 第22条 本会の会計年度は、4月1日に始まり翌年3月末日に終る。

### 第9章 雑則

- 第23条 本会会則の改訂は、理事会の議決を経て総会の承認を必要とする。
- 第24条 本会会則施行に必要な事項は、理事会の議決を経て会長が定める。

### 付則

- 1 本会則は、平成4年12月19日の総会において会則改訂の承認を得て、平成4年12月20日から施行する。
- 2 平成4年度及び5年度在学生は、第20条における会費の納入を卒業、修了時に一括して納入する。

---

広報担当者 様

## 豊橋技術科学大学同窓会誌広告掲載のご依頼

拝啓、益々ご清栄のこととお慶び申し上げます。

さて、当同窓会では、より円滑な運営を図るべく、同窓会誌に広告を掲載することに致しました。

つきましては、下記のように掲載広告を募集していますので、広報担当者にお口添えくださいますようお願い申し上げます。

発行後、見本として5冊は無料でお送りしますが、その他は有料（500円/冊）となります。6冊以上必要な場合は版下送付の際にお申し添え下さい。

ご多忙中、お手数をお掛け致しますが、宜しくお取り許らい下さいますようお願い申し上げます。

敬 具

1994年12月15日

豊橋技術科学大学同窓会 会長 近藤 秀範

---

### 記

---

◎同 窓 会 誌：B5版，30ページ程度，白黒

(1) 内容…学内近況報告，研究室紹介，事務官より 等

(2) 発行…年1回

(3) 部数…約6000部 \*今後400部/年で増加

◎広告掲載料：5万円/1ページ，3万円/0.5ページ

◎送 付 先：豊橋技術科学大学同窓会

愛知県豊橋市天伯町字雲雀ヶ丘1-1 〒441

◎締め切り：'95年9月末日

◎支払い方法：銀行振込 \*発行後，請求書をお送します。

◎問い合わせ先：下記まで郵送にてお願いします。

〒441 愛知県豊橋市天伯町字雲雀ヶ丘1-1

豊橋技術科学大学同窓会 事務局